

# 第 6 2 4 回 放送番組審議会

## 議事録

2025年12月16日（火）



## 第 6 2 4 回 放送番組審議会

1. 日時 2025年12月16日(火) 午後4時30分

2. 開催場所 テレビ岩手6階 大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 8名

委員長 蛸崎 奈津子

副委員長 岩舘 めぐみ

委員 中野 美知子

委員 岡安 大地

委員 畠山 正

委員 大森 健史

委員 保 和衛

委員 千葉 幸子

欠席委員 1名

委員 菅原 和宏

社側出席者

福士 千恵子 代表取締役社長

池田 学 専務取締役経営企画局長

小形 恵一 取締役報道制作局長

廣嶼 文樹 報道制作局制作部長

澤藤 寛明 報道制作局制作部副部長

金子 真志保 報道制作局制作部主任

事務局

桑島 広実 (執行役員編成局長)

#### 4. 議題

1. 議題：11／9（日） 16:55～17:25  
「ピノキオ・サンセット」

2. その他

#### 5. 資料（資料として以下のものを配布）

- ・視聴者からのご意見
- ・2025 年テレビ岩手自社制作単発番組一覧

#### 6. 意見

##### 【委員側意見】

○鋳型の簡単な説明を番組の冒頭部分に入れたほうが、視聴者はわかりやすかったのではないかな。作家だけではなく南部鉄器の技術者のインタビューがありとてもよかった。技術者たちも楽しんで関わっているのが伝わってくる笑顔だった。

○この番組は情報番組というイメージがあったが、今回は文化交流を紹介し、文化の色が強い良い番組だった。番組中の津波注意報の情報について、表示の順番や画面上の表示位置について検討の余地があると感じた。

○熱く溶けた鉄と芸術家たちの情熱をかけて、リキッドパッションというタイトルは秀逸だった。海外の芸術家たちが、新たな取り組みを子供のように楽しんでいる姿に目がいった。彼らの好奇心が鑑賞をする人に伝わるというのも、芸術の一部であると感じた。

○事の始まりから展示会までを時系列で紹介し、ひっきりなしに分かりやすい構成だった。「出来上がりはクリスマスの朝の楽しみのようなもの」というコメントがあり、創作の楽しさがイメージできた。畳でつくられたもの、竹で作られたもの、いずれの作品にも納得感があった。

○岩手の鋳造文化や鉄の力の可能性を知ることが出来た素晴らしい番組だった。「開けてみないとわからない」ということが面白さであるならば、芸術家たちが型を開ける瞬間の表情も見たかった。ケイトさんの作品は何を型に鋳造したのか、今回展示された作品の中に畳や竹以外の型の作品があるのかどうか、知りたかった。

○「滞在製作」という、その地の特徴を生かした芸術があることに驚かされた。何ができるかわからない芸術と、売るための製品を作ってきた人たちが関わる事を、途中まで違和感のように感じて番組をみていたが、紹介された技術者のコメントが、その違和感を埋めてくれる素敵なメッセージであったと感じた。

○鋳造技術をアートにしている芸術家がいるということが面白いと感じた。芸術家たちの作品に対する意欲や、創作を楽しんでいることが、インタビューや制作過程の様子から伝わった。津波注意報の画面表示がコメントの字幕と被るところがあったが、緊急時に画面表示する際の規定などがあ

れば教えていただきたい。

○非常に新鮮かつ興味深いテーマだった。おなじみの番組だったが、新しい切り口を提示してくれた印象。日が暮れた時に火花が散る場面は圧巻で、視聴者を強く引き込んだのではないかと感じた。アナウンサーのナレーションが効果的で、作品の世界観を一層際立たせていた。

#### 【局側意見】

○津波注意報の情報スーパーは画面右下の位置に生成される。位置を変えることもできるが、早く出すことを優先するため今回はその位置のまま放送した。津波情報など緊急のお知らせは番組のテロップ等の位置にかかわらず情報の伝わりやすさを優先して出すことにしている。

○そもそも鋳型とは、そもそも南部鉄器はどのように作られているのかなど、基本の情報を紹介していたほうがより番組全体の理解が深まったかもしれない。

○番組の冒頭であらすじをしっかりと説明し、かつ作品作りの迫力ある映像をなるべく早めに紹介することで、時系列のシンプルな構成でありながら視聴者に飽きずにみていただけるよう気をつけた。

#### 7. 審議機関の答申または意見の概要公表の方法及び年月日

①自社放送 12月25日（木）11:25～11:30「あなたと歩むテレビ岩手」

②テレビ岩手本社での据え置き